



令和8年度 町政執行方針

令和8年第1回当別町議会定例会で、新年度の町政執行方針および教育行政執行方針が後藤町長、三澤教育長からそれぞれ述べられましたので、その内容と新年度の予算概要をお知らせします。

戦略プラン1 産業力の強化 ～しごとの創生～

企業誘致推進プロジェクト 商工業活性化プロジェクト

- ◆ 医療大学跡地の活用を含め、町の魅力や立地環境を積極的に発信し、新たな誘致企業の掘り起こしを引き続き進めます。また、関係機関が主催するセミナーなどを通じて町の優位性をPRし、更なる企業誘致を目指します。
- ◆ 大学移転後の影響を見据え、アパートの空室対策や町内での消費を維持するための取り組みを継続します。
- ◆ 市街地の空き店舗活用の推進により、新たな店舗出店の動きが進んでおり、賑わい創出や経済活性化に向けた支援を継続します。

道の駅プロジェクト

- ◆ 当別町の魅力発信拠点として、さらなる来場者数の増加を目指し、株式会社 tobe とともに新たな企業との連携やイベント開催を推進します。

農業10年ビジョン推進プロジェクト

- ◆ 「第2期当別町農業10年ビジョン」に基づき、『儲かる農業』を目指し、スマート農業や6次産業化を

重点施策とし、花卉共選施設でのAI活用実証を継続します。

- ◆ 海外での市場調査の結果を活かした花卉の輸出にも取り組み、北海道屈指の花卉産地である当別町の魅力を世界に発信します。
- ◆ 地域おこし協力隊制度の活用や農業総合支援センターと連携し、担い手の育成を推進します。
- ◆ 6次産業化を進める農業者への施設や機械導入支援を継続し、挑戦を後押しします。



再生可能エネルギー利用プロジェクト 林業振興によるエネルギーの地域循環プロジェクト

- ◆ 当別町の広大な森林資源はとうべつ学園の壁や床、木製玩具、ウイスキー樽など幅広く活用されており、新たに森林資源を活用した商品開発への補助制度を開始します。
- ◆ 森林整備ではデジタル技術を活用した解析を行い効率的な整備を進めます。
- ◆ ゼロカーボン推進のため、環境省の交付金を活用した再生可能エネルギー設備の導入支援や役場施設への設備導入を進めます。
- ◆ 新たにミックスペーパーリサイクルを導入し、シュレッダー屑やレシートの資源回収に取り組みます。

戦略プラン1の主要な事業	予算額
町内会街路灯LED化事業	243万円
担い手確保推進事業	1,053万円
6次産業化・販路拡大推進事業	430万円
農業DX化推進事業	1,025万円
市街地空き店舗等活用促進事業	723万円
当別町アパート・マンション引越応援事業	608万円
当別町地域間交流拠点施設（道の駅）指定管理業務	5,000万円
林業専用道「本中小屋線」開設事業	2,112万円
森林資源活用促進事業	100万円
再生可能エネルギー設備導入推進事業	8,887万円
道路照明施設更新事業	5,000万円

戦略プランⅢ 人を呼び込むまちの再生
～魅力の創生～

新しいまちの顔づくりプロジェクト

- ◆ 冬期間の自動運転バスの実証運行の中で生じた、降雪時や低温環境下での課題解決に取り組むとともに、社会実装の実現に向けて、運行に必要な財源や国の動向を注視しながら、今後の方向性を検討します。



駅周辺再開発プロジェクト

- ◆ 町営住宅の整備に関して、末広団地の解体工事を引き続き進めます。また、「第2期当別町町営住宅等長寿命化計画」に基づいた管理の中で、一部の町営住宅の建替等が早急に必要な状況でしたが、民間賃貸住宅を活用した借上町営住宅の整備に向けて制度設計を進めます。



公共交通活性化プロジェクト

- ◆ 「ふれあいバス」および「月形当別線」の利便性向上を図りつつ、医療大学移転後を見据えた持続可能な公共交通の在り方を検討します。
- ◆ 公共交通を維持するうえで必要不可欠な運転手を確保するため、「交通事業者運転手確保対策事業」を継続して実施します。

移住促進プロジェクト

- ◆ 住宅建築費の高騰が続く中で「住宅購入支援金」の重要性が一層高まっていることから、継続して取り組みます。
- ◆ 高等学校等へ通学する生徒を対象とした「通学費助成制度」は、新年度から助成率を引き上げ、子育て世帯の負担軽減を図ります。
- ◆ 「町の魅力発信事業」において、首都圏や札幌圏を中心としたプロモーションを継続し、関係人口や移住・定住人口の拡大を目指します。

観光資源の活用・創出プロジェクト

- ◆ 令和6年度の観光入込客数は、過去最高の189万人を記録しました。今後は、その観光客を町内全域に周遊すべく、観光協会と連携し、甲冑の着付け体験や、開拓時代の食事を現代風に再現した「とうべつ伊達御膳」などのコンテンツに「当別町周遊観光バスツアー誘致助成制度」を組み合わせるほか、北海道と連携し、道民の森やふくろう湖といった地域資源を有効活用するなど、さらなる誘客の強化に繋がります。
- ◆ インバウンドの誘致を目的としたSNSの多言語化を進め、当別町の魅力を世界に発信します。
- ◆ 北海道観光機構などと連携を深め、町外での積極的な観光プロモーションを実施することにより、さらなる観光入込客数の増加を目指します。



戦略プラン2の主要な事業	予算額
交通事業者運転手確保対策事業	75万円
当別町コミュニティバス運行事業	2,738万円
JR 札沼線代替バス（月形当別線）運行事業補助金	2,160万円
住宅購入支援金	6,000万円
高等学校等生徒通学交通費助成事業	960万円
当別町観光協会補助金	578万円
町道中通線道路改修事業	2300万円
町営住宅等長寿命化事業	1億3,228万円

戦略プランⅢ 未来を担う子どもの育成 ～ひとの創生～

小中一貫教育推進プロジェクト

- ◆ 国が実施する小学校の給食費無償化に合わせ、町独自の施策として中学校の給食費も無償化します。また、食材費高騰への対策を行うとともに、栄養バランスや量を維持しつつ、当別町産食材を活用するなど、食育にも対応します。
- ◆ 西当別小学校および西当別中学校の照明を LED 化し、学習環境の改善を進めます。
- ◆ 大崎市岩出山町に中学生を派遣し、姉妹都市交流を深め、将来にわたり両市町の絆を深め合うことができるよう取り組みを進めます。

子育て世帯応援プロジェクト

- ◆ 「とうべつこども HIRARI 計画」の基本理念の実現を目指し、5つの基本目標に沿った施策を進めます。
- ◆ 保育所等に通っていない0歳6か月から満3歳までの子どもが定期的に保育所等を利用することができる乳児等通園支援事業、「こども誰でも通園制度」を4月から実施します。
- ◆ 「保育士等就労支援事業」を拡充し、受け皿となる町内認定こども園の保育人材の安定的な確保に努めます。
- ◆ 母子保健を担う「子育て世代包括支援センター」と児童福祉を担う「当別町子ども家庭総合支援拠点」を統合し、「当別町こども家庭センターひらり」を設置します。「ひらり」では、母子保健と児童福祉双方の支援状況を把握しながら一体的な支援の調整を行う統括支援員を配置し、子育て世帯への支援の充実を図ります。
- ◆ 子育て世帯をはじめ幅広い世代における憩いの場としての公園機能の再生を図るため、「公園施設長寿命化計画」に基づき、遊遊公園の複合遊具の更新と、阿蘇公園のトイレ更新設計を実施します。



戦略プラン3の主要な事業	予算額
子ども医療費助成事業	5,006 万円
乳児等のための支援給付事業（こども誰でも通園制度）	1,670 万円
保育士等就労支援事業	1,380 万円
子育て世帯訪問支援事業	74 万円
阿蘇公園バックネット改修事業	700 万円
公園施設長寿命化事業	7,000 万円
学校給食無償化事業	4,202 万円
教育施設改修計画策定事業	699 万円
遣岩出山生徒使節団事業	73 万円
学校給食物価高騰対策事業	1,185 万円
学校部活動地域展開推進事業	1,475 万円
当別町総合体育館キュービクル改修事業	3,500 万円

戦略プランⅣ 住み続けたいまちの形成 ～まちの創生～

災害に強いまちづくりプロジェクト

- ◆ 「当別町新庁舎建設基本構想」に基づき、旧公民館および周辺用地を第一候補地として、庁舎の規模や必要機能、文化ホールとの複合化の詳細を整理し、設計業務への移行を進めます。また、リース方式での整備を軸に検討し、将来負担や財政への影響を見極めつつ早期の開庁を目指します。さらに、開庁時の費用に備え、3年間にわたり新庁舎建設基金を積み立てます。
- ◆ 市街地に近い茂平沢地区に新たな雪堆積場を整備し、排雪時間と事業費の削減を図り、持続可能な除排雪体制の構築を進めます。
- ◆ 治水橋の長寿命化修繕工事や町道中通り線の改修を行うほか、局所的な大雨による水害対策として、大沢川の浚渫工事を実施します。
- ◆ 町民の自助・共助の精神を育む防災学習会や訓練を引き続き実施するとともに、運用終了予定の「Jアラート」に代わる新しい警報システムへの対応として、新型受信機への更新を速やかに進めます。



地域・在宅医療確保対策プロジェクト 地域福祉推進プロジェクト

- ◆ 介護人材の確保に対する支援を継続するとともに、新たに医療分野における人材確保に向けた支援を実施し、医療・介護体制の充実を図ります。
- ◆ 「健康マイレージ事業」として、健康増進や生活習慣の改善に向けた取り組みに対し、当別 EZOCA へのポイントを付与する取り組みを実施します。
- ◆ 運転免許を保有していないなど、移動手段の確保が困難な高齢者世帯を対象にした「高齢者外出支援タクシー料金助成事業」を実施し、通院や買い物、地域活動などの外出を支援します。
- ◆ 地域福祉計画などが更新時期を迎えることから、地域住民の皆様、各団体・関係機関の意見を広く取り入れ、当別町の福祉行政がより良い方向へ進むよう取り組みます。

戦略プラン4の主要な事業	予算額
全国瞬時警報システム(Jアラート)機器更新等業務	1,146万円
新庁舎建設不動産鑑定評価事業	31万円
新庁舎建設基金積立	3億円
医療人材確保支援事業	570万円
健康マイレージ事業	40万円
高齢者外出支援タクシー料金助成事業	852万円
介護人材確保支援事業	270万円
就労系事業所等通所交通費助成事業	200万円
町道除排雪事業	6億8,880万円
雪堆積場整備事業	7,377万円
橋梁長寿命化修繕事業	2億3,340万円
町道文教通二号線外道路改良事業	3,300万円
町道十六線道路改修事業	1,200万円
町道篠津運河線道路改修事業	4,500万円
河川 ^{しんげつ} 浚渫事業	2,500万円

戦略プランV デジタル基盤の構築 ～デジタル田園都市「TobetsuDIGI'town」の創造～

総合戦略を進めるデジタル基盤構築プロジェクト

- ◆ 各種業務における DX の推進や、「チャット GPT」「マイクロソフト 365Copilot」などの生成 AI の活用に取り組みます。そのなかで、生成 AI の活用に優れた職員を「生成 AI エバンジェリスト」として任命し、それぞれの職務において技術的知見が最大限発揮できる体制を構築します。

- ◆ 職員のデジタル関連資格の取得を支援する制度を新たに創設し、職員のデジタルスキル向上を促進することで、自治体 DX を担う人材基盤を強化します。
- ◆ 町公式ホームページに追加した生成 AI 検索機能をより効果的に活用するため、掲載記事の拡充を図るとともに、ホームページと LINE の連携機能を導入し、必要とする情報がホームページに掲載された際に自動で LINE へ通知される仕組みを整備します。

戦略プラン5の主要な事業	予算額
情報発信デジタル基盤構築事業	207万円
業務自動化システム運用事業	519万円



おわりに

「当別町人口ビジョン改訂版」による医療大学移転を想定した将来人口推計では、2035年に12,014人、2050年には8,812人になると推計されていますが、移住・定住の促進や出生率の向上により、人口減少を緩和できる推計も示されています。創意工夫を重ねながら、より一層魅力ある町となるよう取り組みを進めます。

新年度では、令和9年度を始期とする「新しい総合計画」と「総合戦略」の策定に取り組みます。その過程で、「北海道バレービジョン」や「GX/AI金融・資産運用特区」といった動きのなかで、当別町が果たすべき役割を見極めつつ、広域的な情勢の変化に対応することができるよう、町の将来像やまちづくりの方向性を示していきたいと考えております。

その他の事業	予算額
当別町総合計画・総合戦略策定支援業務委託	695万円
町内会運営費補助金	819万円
水道管路更新事業 ※水道事業会計	1億8,340万円
下水道管渠更新事業 ※下水道事業会計	3億6,520万円



令和8年度 教育行政執行方針

学習指導

- ◆ 確かな学力の定着と生きる力の育成を目指す。
- ◆ 教職員研修の充実や教材・教具など指導環境を整備。
- ◆ 教師の質を高める日常実践の充実を図る。
- ◆ 多様な子どもの資質や能力を育成する授業作りを推進。
- ◆ 独自教科「とうべつ未来学」を充実させ、探究活動を推進。
- ◆ 子どもの感性を磨き、未来を創造する力を育む教育を充実。

生徒指導

- ◆ 教育支援センターやメタバースを活用し、多様な学びの機会を確保した不登校対策の推進。
- ◆ ICTを活用したいじめの未然防止と早期解決に向けた家庭・学校・関係機関をつなぐ支援員を配置。
- ◆ 指導・支援体制を深化し、安心・安全な学校風土を醸成。

地域と共にある学校

- ◆ 社会教育と連携した「学力・体力向上に向けた家庭・地域との連携・協力」
- ◆ 令和9年度内の完全実施に向け、部活動地域展開を推進。
- ◆ 地域と学校の資源を循環させ、子ども育成を支える環境づくりを進める。
- ◆ 姉妹都市・大崎市へ中学生を派遣し、交流を深め、ふるさとへの誇りと愛着を育む「ふるさと教育」の充実。

- ◆ 小学生と中学生を対象に学校給食の無償化を実施。
- ◆ 物価高騰に対応するため、材料費の補填を行う。
- ◆ 地元食材や姉妹都市の味覚を活かした「とべっこランチ」を継続。

生涯学習の推進

- ◆ 少年の意見発表会や小中高大生タウンミーティングを継続。
- ◆ 子ども会育成連合会と連携し、キャンプ事業など体験活動を実施。
- ◆ 北海道医療大学と連携し、町民向け講座を実施。
- ◆ 図書館イベントの実施、セルフ貸出に対応したシステムへの更新により読書活動を推進。



文化・芸術・スポーツの推進

- ◆ 文化公演事業として、札幌交響楽団の演奏会や落語会を開催。
- ◆ 総合型地域スポーツクラブを中心に、中学校の部活動を地域クラブへ展開。
- ◆ 持続可能なスポーツ環境の整備や次世代指導者を育成。

歴史伝承と郷土愛の醸成

- ◆ 古文書解析講座を通じて、歴史教育を推進。
- ◆ 歴史研究の成果と当別の歴史認識を未来に継承するため、歴史資料集の編さんを進める。

地域の教育力の向上

- ◆ 子どもたちの活動を支える地域ボランティアや地域指導者の活躍の場が広がるよう、地域人材の育成とマッチングを進める。

施設整備等

- ◆ 西当別小学校及び西当別中学校 LED 照明化。
- ◆ 総合体育館キュービクル更新。
- ◆ 伊達記念館屋根改修。

令和8年度 当初予算の概要

当別町各会計予算

213億9,169万円

()内は前年度との比較
(+6億4,770万円)

会計名	令和7年度予算	令和6年度予算	対前年比増減	増減率	
一般会計	141億5,561万円	139億1,359万円	2億4,202万円	1.7%	
特別会計	国民健康保険	21億8,457万円	22億867万円	-2,410万円	-1.1%
	介護保険	18億306万円	17億4,351万円	5,955万円	3.4%
	介護サービス事業	7,155万円	6,871万円	284万円	4.1%
	後期高齢者医療	3億8,234万円	3億2,307万円	5,927万円	18.3%
水道事業会計	9億6,845万円	9億494万円	6,351万円	7.0%	
下水道事業会計	18億2,611万円	15億8,150万円	2億4,461万円	15.5%	
合計	213億9,169万円	207億4,399万円	6億4,770万円	3.1%	

当別町一般会計予算

141億5,561万円

(+2億4,202万円)

歳入

町税 15.4% 21億7,509万円
(+6,424万円)
町民税や固定資産税など

地方交付税 28.1% 39億8,321万円
(+1億5,826万円)
国から交付される依存財源

使用料及び手数料 0.9% 1億2,449万円
(-220万円)
施設使用料等の利用者負担分

国庫支出金 11.4% 16億1,834万円
(-2億227万円)
国からの補助金など

道支出金 5.5% 7億7,219万円
(+1,986万円)
道からの補助金など

寄附金 16.3% 23億205万円
(+115万円)
ふるさと納税寄付金など

繰入金 11.8% 16億7,539万円
(+3億6,888万円)
基金(町の貯金)からの補足分

繰越金 0.4% 5,000万円
(0円)
前年度予算の残額

町債 3.6% 5億490万円
(-1億6,570万円)
銀行等からの借入れ

その他 6.7% 9億4,995万円
(-21万円)
財産収入や補助金収入など

歳出

議会費 0.6% 8,101万円
(-91万円)
議会の運営費

総務費 21.2% 29億9,724万円
(-3億5,259万円)
庁舎管理、税務、企画事業

民生費 19.4% 27億5,273万円
(-6,754万円)
高齢者福祉や児童福祉事業

衛生費 4.2% 5億8,043万円
(+2,644万円)
ごみ処理や保健衛生事業

農林水産業費 4.6% 6億5,218万円
(+1億1,653万円)
農業振興や農地、山林の整備

商工労働費 0.9% 1億3,234万円
(+253万円)
商工振興、観光事業

土木費 19.4% 27億4,130万円
(+4億2,834万円)
道路や公園の整備・管理、除雪

消防費 4.2% 5億9,912万円
(+1,864万円)
消防活動、救急救命

教育費 4.7% 6億5,890万円
(-1億1,776万円)
学校の維持管理、社会教育事業

公債費 6.6% 9億3,775万円
(+1,880万円)
町債(町の借金)の返済

職員費 14.3% 20億1,760万円
(+1億6,954万円)
職員の人件費

その他 0.0% 501万円
(0円)
災害復旧費、予備費